

センサーマット導入による生産性の向上

社会福祉法人 遊歩の会
グループホーム 遊歩の家

課題

- 夜間帯の利用者の様子が 1 時間おきの見回り時にしかわからなかった。
- 見回り時に扉の開け閉めで目が覚めてしまう方がいた。
- てんかん発作や体調が急変する利用者の方への対応、管理が難しかった
- 感染症発生時に職員へ感染するリスクが高かった。

ロボット導入

aams
センサーマット



成果

- 夜間帯の利用者の様子が PC を通じて常時、把握することができるようになった。
- 見回りの回数を減らし、扉を開け閉めする回数も減り利用者の方を起こすこともなくなった。
- てんかん発作や体調が急変する利用者の方への対応が瞬時にできるようになった。
- 感染症発生時に直接、触れることなく利用者の方の健康状態がわかるようになった。
- 職員がデスクを離れていてもタブレット機器で状態が把握できるようになった。
- 他のユニットを利用の方の健康状態も PC で確認できるようになった。

業務効率化のステップ

- ①家族や本人に対してセンサーマットの機器に対する説明を実施。
- ②導入に対しての承諾を得る。
- ③センサーマットの取扱い説明書や業者との打ち合わせにおいて、リスクやメリットの共通理解を行う。
- ④導入に際して Wifi 環境などの状況を把握。Wifi スポットを増設して対応。
- ⑤夜間帯の記録、変化、を共通認識。ID、PASS を職員間で共有。
- ⑥職員会議時において現在の状況や改善点などを議論する。



職員の声など

【良かった点】

- ・パソコンモニターで利用者の状態(呼吸数低下、脈拍低下、離床、起き上がり)がすぐに確認できる。
- ・異常がある場合はアラームが鳴る為、状態異常を見逃すリスクが軽減された。
- ・職員の巡回回数も減り、利用者の安眠に繋がった。
- ・離床、起き上がりも検知しアラームが鳴る為、利用者の方の転倒、転落など危機回避にも繋がる。
- ・利用者の睡眠状態(浅い眠り、深い眠りなど)も分かりやすく把握できるようになった。
- ・aams 導入により職員の安心感があり、心身の負担リスクも軽減。

【悪かった点】

- ・誤作動が心配。Wifi が途切れたときはどうするのか、心配。

【今後の課題】

- ・職員全体で課題について話し合い、業務の効率性をあげていくか検討する。

